

北名古屋の国際交流。。。 ぼづくり、ひとづくり、ちいきづくり。



**北名古屋地域ブランドプロジェクト
「北名古屋特産！いちじく酵母」で、
地域ブランドづくりにチャレンジ**

このプロジェクトは、北名古屋市国際交流協会が市民の手づくりにより推進する国際交流をツールとした地域ブランドづくりです。協会事業の大きな柱の一つである「国際交流を活用した地域づくり」を担うプロジェクトで、協会内に設置する運営会議地域おこし委員会が、アイデア出しから、企画運営、実施まで、市民参加で取り組んでおります。

二〇一一年、北名古屋市と友好提携都市である韓国全羅南道務安郡との「食の文化交流」をきっかけにして、スタートしました。この交流の主要テーマは、「北名古屋ならではのもの」、「務安ならではのもの」を探求するもので、北名古屋の「地域の価値」を掘り起し、北名古屋の「地域の新しい魅力」を再発見する試みであります。

運営会議地域おこし委員会では、市民から多くの意見をいただき、検討を重ね、地域ブランドをめざす食材を、北名古屋を代表するいちじくとすることにいたしました。いちじくは、90年位前から沖村の農家を中心に栽培され、市内で広く生産されるようになり、地域にとって、大変身近な果物です。この北名古屋特産いちじくで、酵母をつ



くり、それを活かした産品を、地域ブランドに繋げていきたいと考えております。いちじく酵母は、いちじくに含まれる糖をアルコールと炭酸ガスに分解しながら分裂を繰り返して成長します。酵母づくりのレシピは、完全公開です。（3ページ参照。協会ホームページでもアップしております）
この「北名古屋特産！いちじく酵母」を幅広く活用して、からだに良く、美味しい「北名古屋ならではのもの」を、北名古屋地域ブランドとして開発提案したいと考えております。協会の小さなチャレンジが、今、始まります。

アジアを識るシリーズ！ 演題。パレスチナ紛争を考える

協会では、世界に突き刺さる棘、パレスチナ紛争への国際理解を深めるため、8月3日(土)北名古屋健康ドーム研修室で、中日懇話会事務局長小塚哲司氏をお迎えし、講演会を開催しました。以下は、その概要です。

パレスチナ紛争とは、「イスラエル国家」とイスラエルの占領下に置かれてきた「パレスチナ住民」との紛争のことです。この地域は昔から「パレスチナ」と呼ばれてきたことから、パレスチナ紛争とか、中東紛争と呼ばれます。占領状態は1967年以来、今まで46年間続いています。パレスチナ側は武力による長い独立闘争を経て、和平交渉に転じます。しかし、パレスチナの独立を認めない和平交渉に疑問を持つパレスチナ過激派によるイスラエルへのゲリラ攻撃は断続し、これにイスラエル側は圧倒的な軍事力で武力弾圧を続けてきました。

イスラエルがなぜパレスチナの独立を認めないのか。イスラエル人にとっては、大昔に栄えた「古代ユダヤ国家」のあった祖国であり、国民の半数以上が返す必要はないと考えているからです。ユダヤ人は2000年ほど前に土地を去り、その後、パレスチナ民族が住みついてきました。ところが第二次大戦前からユダヤ人が、続々と祖国のあった土地に舞い戻ってきたから、二つの民族の争いが生まれたのです。

ユダヤ人の歴史から触れると、「約束の地、カナンに行け」と、神から告げられた族長アブラハムが、流浪の民族を引き連れ、カナン(パレスチナ)に定住します。時が過ぎ、農作物が取れず、飢餓状態に陥った時代に、繁栄していたエジプトに移住します。が、ひどい奴隷状態に置かれたため、モーゼが一族を引き連れ、エジプトから脱出します。旧約聖書の「出エジプト」です。

再びパレスチナに戻ったユダヤ民族は、今から3000年前に「古代ユダヤ国家」を樹立し、ユダ

ヤ教の神殿を作り、繁栄しました。ダビデやソロモン王の時代は有名です。

2000年前ごろから、ローマ帝国の支配下に置かれます。ユダヤ教は神から選ばれた「選民」であるユダヤ人のみを救済をする宗教ですが、ユダヤ人の子供であるイエスは「すべての隣人を愛せよ」と説き、多くの人を引き付けた。このためユダヤ人からも、ローマ総督府からも危険人物として、十字架に縛られ、磔刑にあいます。イエスの教え「キリスト教」はペテロ(パウロ)らによって、欧州に広められ、最大の宗教になりました。ユダヤ人は紀元57年、ローマ総督府から、パレスチナからの追放命令を受け、世界各国に散って(世界離散「ディアスポラ」)生き延びていきます。賢いユダヤ人はどの国でも、金融やダイヤモンド市場などを握り、地位の高い生活を維持していききました。土曜日の安息日には、シナゴグ(ユダヤ教徒の礼拝所)に集まり、「民族と祖国を忘れない」と祈ってきました。

ところが19世紀末から、各国でユダヤ人排斥の声が強まったことで、祖國、シナイ山のもとのパレスチナに帰ろうという「シオニスム運動」が高まります。第一次世界大戦が始まると、中東の植民地支配を議論するイギリスが、アラブ民族には「オスマントルコ打倒に協力するなら、将来『アラブ国家』を認めよう」と約束する一方で、「パレスチナにユダヤ人国家を建設させる」と、いわゆる「二枚舌外交」をした。これを信じたユダヤ人のパレスチナ帰還が激増していきます。

パレスチナの土地には、アラブ人でイスラム教徒のパレスチナ人が住みついてきました。しかし、ユダヤの大富豪、ロスチャイルド家の支援もあり、祖國に帰還したユダヤ人は土地を買ひあさり、時には強制的にパレスチナ人を立ち退かせたため、紛争は激化するばかりでした。

困った英国は、第二次大戦の後、国連に「アラブ・ユダヤ分割案」を提出。大戦中のナチスによるユダヤ人虐殺(ホロコースト)への同情もあり、賛成33、反対13、棄権10で可決されたのです。国連のお墨付きを得たユダヤ人は1948年、「イスラエル国家」の建国を宣言します。そのころユダヤ国家はパレスチナの半分近くに拡大されており、しかも「ユダヤ国家」建国に反対した周辺のエジプト、シリア、ヨルダンなどアラブ諸国が、パレスチナ支援のイスラエルへの戦争を始めました。「第一次中東戦争」です。そ

して1967年の第三次中東戦争で、イスラエルはパレスチナ人の土地をすべて占領し、占領状態が今も続いているのです。

ところで西アジア、中東には、ユダヤ教、キリスト教のほかに、7世紀以後から「イスラム教」が広まります。アラビア半島に居住するアラビア人は、ユダヤ教、キリスト教の影響を受けるアラビア宗教を持つていましたが、サウジアラビアのメッカに生まれたマホメットが、砂漠に生きる民にふさわしいイスラム教を打ち立てたのです。

当時、ユダヤ教、キリスト教を生んだパレスチナの大都市エルサレムが、アラビア半島の都でしたから、マホメットもエルサレムに行き、岩山から昇天し、アララの神から啓示を受けます。その岩山の場所に、後年、「岩のドーム」というモスク(イスラム教徒の礼拝所)が建造されました。イスラム教の最大の礼拝地、メッカの「カーバ神殿」に次ぐ、聖地です。

さてエルサレムには、「古代ユダヤ国家」の神殿の西壁の一部が残され、イスラエル人にとっては、「祖國」の物的証拠として、毎日、ユダヤ教信者が壁に向かって祈りを捧げています。実は「岩のドーム」は、このすぐ裏側にあり、さらにキリストの処刑地に立てられた「聖墳墓教会」も遠くありません。つまり狭いエルサレムの旧城郭内に、三大宗教の聖地が固まっている訳です。中世に欧州からの「十字軍」は、キリストの聖地をイスラム教徒から奪い返したり、奪われたりという宗教戦争でした。エルサレムはいずれも譲れない聖地で、根本的な争いの根があるのです。

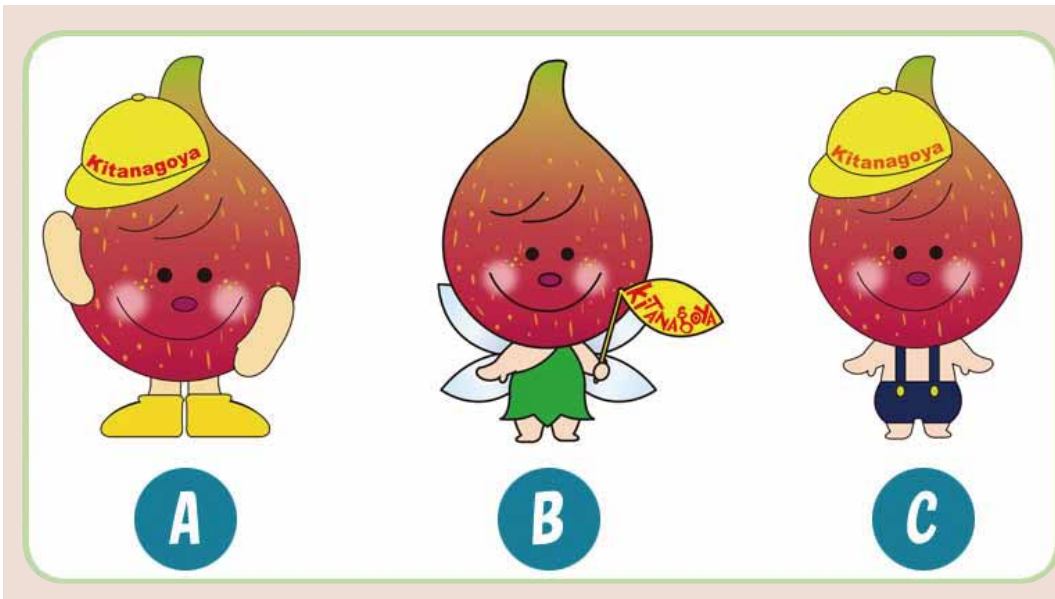
第三次中東戦争により、パレスチナと聖地エルサレムも、イスラエルの占領下に入りました。パレスチナは「パレスチナ解放機構」(PLO)を組織し、武力による反占領地闘争に入りましたが、軍事力に勝るイスラエルに歯が立ちません。

その後、イスラエルの同盟国である米国が、石油という資産を生む中東の安定のためにも、イスラエルとパレスチナの共存、「パレスチナ和平」の仲介を試みます。しかしパレスチナからのゲリラ攻撃に悩むイスラエル、圧倒的なイスラエル軍による空爆などに憎しみを深めるパレスチナ。加えて「神に約束された土地」で、返す必要はない、という宗教上の信念を固持するイスラエル。和解はなかなか進みません。

(続きの講演は、10月19日に開催されました。概要は、会報18号に掲載します)

あなたが、好きな
「いちじく君(仮)」は、どれ？

人気の一番高い「いちじく君(仮)」を、「北名古屋地域ブランドプロジェクト」のイメージキャラクターに決定します。



《投票方法》

協会事務局(市役所西庁舎4階)でご投票ください。

また、協会ホームページからも投票できます。協会ホームページにアクセスし、投票したい「いちじく君」のA、B、C部分をクリックするとメーラーが起動しますので、ニックネーム、ご意見等を記入してご送信ください。なお、11月23日(祝)開催予定の「ふれあいフェスタ2013」の国際交流コーナーでも投票できます。

《しめきり》

平成25年11月30日

「北名古屋特産！いちじく酵母」は、
どうやって作るの？

□用意するもの

①「北名古屋特産！いちじく」1kg ②砂糖1kg ③密閉できる瓶(熱湯煮沸消毒)

□作り方

- ①いちじくを洗う。(軽く、洗い流す)
- ②半日、水けを切るため乾かす。
- ③瓶に半分のいちじくを入れ、同分量の砂糖を入れる。次に残りのいちじくを入れ、残りの砂糖を入れる。
- ④二日後に、瓶を振って砂糖が良く溶けているか確認する。
- ⑤その二日後に、砂糖が瓶の底に沈みやすいので濃度を均一になっているかどうか確認し、もう一度瓶を振る。
- ⑥3か月後、瓶の中がいちじくと同色になり、いちじくの良い香りがしたら出来上がり。

私たちの国際交流⑮

中学生国際交流プログラムに参加して

友好提携都市交流委員会 伊藤慶子

毎年夏に北名古屋市と友好都市務安郡との中学生を相互派遣する国際交流プログラムがあります。私は、今年、協会から引率者の一人として参加させていただきました。このプログラムは、今年で5年目になります。これまでの北名古屋市の単独主催から、北名古屋市国際交流協会が加わり、共同主催で実施することになりました。これは、市民が主役となる友好交流の第一歩になつていくものと思います。

今年、夏休みに務安郡の中学生12人を北名古屋市に受け入れ、北名古屋市の中学生11人を務安郡に派遣しました。研修やホームステイの体験など盛り沢山のプログラムでした。北名古屋市では、参加希望の中学生を公募して、実施しています。事前研修も2回、韓国について、務安郡の状況、韓国語の勉強等しました。中学生達には外国語でプレゼンテーションを初めて体験する機会にもなりました。小さい声しか出せなかったのが、短時間で、大きな声で人に聞かせるように変わっていく姿に驚きました。務安郡では、韓国伝統家屋での宿泊を経験しました。初めてのこと戸惑うことが、沢山でした。

国が違えばおもてなし方法も違います。しかし、その暖かい心を思えば理解できます。中学生達が、言葉があまり通じなくても自然にふれあう事ができ、良い出会い、良い思い出、良い経験ができたと思います。この友好の輪をつないでいって欲しいと願っています。今年も例年になく猛暑の中、無事にプログラムが終了したことを感謝しています。

参加者募集

アジアフェスティバル

恒例になりました。アジアの近隣諸国との交流の場として、市民手づくりにより、フェスティバルを開催します。

食と文化の交流を通じて、近くて遠いアジアを、観て、食べて、識(し)り、国際理解を深めるフェスティバルです。

・日時 平成26年2月16日(日)10時から15時半まで
北名古屋市文化勤労会館

・プログラム

アジアフェスティバルは、「市民参加」と「オープンな運営」を基本に進めます。

協会内に設置しております運営企画会議が、アイデア出しから企画、運営、実施まで市民参加で進めます。「アジアを観る。アジアを食す。アジアを識(し)る。」を柱にして、具体的なプログラムづくりがスタートしました。市民持ち寄りの手づくりイベントが満載です。

・入場料 無料



「北名古屋特産!いちじく酵母」
ワールド料理講習会

国際交流をツールとした北名古屋地域ブランド製品の開発と普及のための料理講習会です。地域ブランドをめざす「北名古屋特産!いちじく酵母」を世界の料理に活用していく取り組みです。講師は、韓国ウエスティンホテルで磨いた料理の達人が指導いたします。

11月28日(木) フレンチ料理

12月26日(木) 韓国料理

1月30日(木) イタリア料理

・時間 9時から14時まで

・ところ 北名古屋健康ドームクッキングルーム

・定員 30名(定員になり次第締め切ります)

・受講料 6000円(協会会員5000円)

*3回とも時間、ところ、講師は同じ。



「ふれあいフェスタ2013」に
出展・参加します

平成25年11月23日(土、祝)、北名古屋健康ドームで開催される「ふれあいフェスタ2013」に出展参加します。

◇アリーナ「国際交流コーナー」

①北名古屋国際交流協会の活動のあゆみを写真パネルで紹介します。

②フェアトレード商品を販売します。

アジア・アフリカの開発途上国の自立支援につながる活動です。

③「北名古屋特産!いちじく酵母」地域ブランド製品の販売をします。

④あなたの好きな「いちじく君(仮)」は、どれ? 人気投票でイメージキャラクターを決定します。

◇屋外テント「国際交流協会フードコーナー」

①「北名古屋特産!いちじく酵母」地域ブランド製品を試食販売します。

②綿菓子、ポップコーンなど実演販売します。

各種申し込み、お問い合わせ等は、
左記までお願いします。

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15

北名古屋市役所(西庁舎内4階)

北名古屋国際交流協会

電話 0568-111111 内線2400
ファックス 0568-11800
Eメール info@kitanagoya-kia.jp
ホームページ http://www.kitanagoya-kia.jp